

結果分析 (○：できている ●：できていない)

(調査実施日：令和3年5月27日)

〈学力調査〉【国語】

- 既習の漢字を読んだり書いたりする問題や、故事成語の理解についての問題では県の正答率を大きく上回っていた。基礎学力が十分定着している。
- 話し合いの内容を正確に聞き取ったり、読み取った内容を明確にして表現する問題でも県の正答率を大きく上回っており、日頃の話し合い活動や授業での表現活動の成果があらわれているものと思われる。
- 無回答率も低く、ねばり強く問題に取り組む姿勢が身についている。
- 文法・語句に関する知識に関する問題で、ことばの単位（単語）についての理解に課題が見られた。

〈学力調査〉【数学】

- 数と式に関する計算問題では県の正答率を大きく上回っていた。基礎学力が十分定着している。
- 比例・反比例に関する問題では、 x の変域に対する y の変域を求める問題や比例のグラフをかく問題でも県の正答率を大きく上回っていた。
- 無回答率は全体としては県より低いですが、おうぎ形の面積を求める問題での無回答率が若干高かった。
- 与えられた文章を1元1次方程式にすることで時間を求めるといった数学的な読解力を必要とされる問題で課題が見られた。

〈学力調査〉【英語】

- リスニングの内容理解や対話文の応答に関する問題では県の正答率を上回っている項目がほとんどだった。
- 長文の読み取りの問題では全ての項目で県の正答率を上回っていた。
- 場面に応じて書く英作文の問題では県の正答率を下回っていた。対話の流れに応じて適切な文を書くことが難しかったように思われる。
- 3文以上の英作文の問題に関しても県平均を下回っていた。書く活動が授業を通して不足していることも要因の1つと考えられる。

〈学習状況調査〉

- 「今住んでいる地域の行事に参加している。」「近所の人に会ったときには、あいさつをする」といった設問について、「当てはまる」と回答した生徒の割合が高く、社会性のある生徒が多い。
- 平日の学習時間に関する項目で1時間以上に回答した生徒の割合が81.7%で県平均を約8ポイント上回っている。
- 普段ゲームをする時間は県平均より短く、スマートフォンを使っている時間についても県平均より短い。
- 「自分には、よいところがある。」と感じている生徒は64%で、県平均を10%下回っている。

学校としての対応・目標

- ・学習規律を徹底し、落ち着いた学習環境を整える取組を継続し、すべての生徒に「聴く・考える・伝える（表現する）」場を確保し、生徒が主体となる授業づくりを行う。
- ・予習型の課題に取り組むことで家庭学習と授業内容のつながりを大切にし、計画的に家庭学習に取り組む習慣を身につけさせるとともに、生活ノートやアンケート等を通して学習習慣について把握し、メディアコントロールも含めた注意喚起や家庭との連携を図る。

以上のような学校の指導意図をご理解いただき、ご家庭でもご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。